



神苑の決意

主張

新年を迎えて一年のはじまりと国のはじまりー

「神苑の決意」 主筆 木川智

本号の内容

【主張】新年を迎えて一年のはじまりと国のはじまりー(木川智)：1 / 【解説】アジアから読み解く「大東亜戦争」(高井七海)：3 / 【解説】五〇年代「本土」アメリカ軍基地撤去運動と沖繩(西山徹)：6 / 【連載】アジア放浪記タイ・アユタヤ朝編⑤(仲村之菊)：9 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く⑩伊勢神道と尾張・真福寺(柳凜)：11 / 【連載】いまだときの東アジア(みゃーだ)：13 / 活動報告：13 / 【談話室】(木川智)：19 / 花瑛塾日誌・編集後記：20

1部 1000円
(別途送料160円)

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は読者の皆様には大変お世話になりました。また花瑛塾の活動に御理解、御協力、あるいは御意見、御批判をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、あらためて当誌と花瑛塾の勇躍をお誓い申し上げます。本年もよろしくお願ひします。

秋祭り・冬祭り・春祭り

天才的な民俗学者・神道学者である折口信

夫(一八八七ー一九五三)は、戦前、昭和の大嘗祭を控えた時期に、大嘗祭に関する多数の論文を著し、講演を行っています。

そうした講演論文の一つである「大嘗祭の本義」において、折口は、

私の考えでは、一夜のうちに、秋祭り・冬祭り・春祭りが、続いて行われたものであって、歳の窮った日の宵のうちに、秋祭りが行われ、夜中に冬祭りが行われ、明け方に春祭りが行われるのである。そして、続いて、初春の行事が行われる、

という順序である。

と述べています。もちろん現在では秋祭り、冬祭り、春祭りは分離されていますが、折口は古代の日本において、それらは一夜のうちに連続しているのだとします。折口は湯立て神事などが行われることで有名な三信遠地方の冬祭りの研究を深めましたが、そこでは実際に秋祭り、冬祭り、春祭りが連続して行われています。

そもそも折口は、冬を魂が「殖ゆ(殖える、分割する)」ふゆ、あるいは魂を「触る(触